市町村名	宜野座村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-①	阪神タイガース春季キャンプ受入事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	観光商工課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

阪神春季キャンプの受入態勢の強化を図り、キャンプ中はもちろん年間を通して誘客出来る観光資源として開拓していく。

実施方法

■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	8,652	7,859	6,881	8,524	9,412
	(b) 予算現額	6,388	7,154	6,881	8,524	9,412
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,264	▲ 705	0	0	0
	(d) 前年度繰越額	－	－	－		
	A. 計 (b+d)	6,388	7,154	6,881	8,524	9,412
B. 執行済額		6,388	7,093	6,634	8,524	9,412
うち交付金充当額		5,109	5,673	5,306	6,819	7,530
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	99.1%	96.4%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明：当初計画していた事業内容を実施したので適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
阪神春季キャンプの受入態勢の構築 ・野球場仮設ブルペン、防球ネット、エアーアーチ、パワーテント等設置 ・野球場、総合グラウンド黒土搬入	目　標	（仮設ブルペン設置 防球ネット設置 エアーアーチ設置 黒土搬入）	（仮設ブルペン設置 防球ネット設置 エアーアーチ設置 黒土搬入）	（仮設ブルペン設置 防球ネット設置 エアーアーチ設置 黒土搬入）	（仮設ブルペン設置 防球ネット設置 エアーアーチ設置 黒土搬入）
	実　績	仮設ブルペン設置 防球ネット設置 エアーアーチ設置 黒土搬入　42㎥	仮設ブルペン設置 防球ネット設置 エアーアーチ設置 黒土搬入　42㎥	仮設ブルペン設置 防球ネット設置 エアーアーチ設置 黒土搬入　42㎥	仮設ブルペン設置 防球ネット設置 エアーアーチ設置 黒土搬入　42㎥

達成状況説明：春季キャンプ中、選手及び見学者が快適に練習・見学ができるよう、ブルペンの整備、防球ネット設置、歓迎エアーアーチ設置、パワーテント等設置、黒土の搬入等、球場内外の整備を行い、選手及び見学者が快適な環境施設を整備することにより、観光資源の向上ができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（23年度）	25年度	26年度	27年度	28年度
阪神春季キャンプの受入体制を構築することにより、キャンプ誘客増加（70,000人）	目　標		（来場者 70,000人）	（春季キャンプ受入 オープン戦の開催 来場者 90,000人）	（来場者 60,000人）	（来場者 70,000人）
	実　績		来場者　63,700人	阪神キャンプ開催 オープン戦無し 来場者　63,800人	来場者 114,000人	来場者 111,300人

進捗状況説明：阪神タイガースの春季キャンプを2月1日～29日まで行い、キャンプ環境、見学者の誘客と安全を図るため、黒土入替え、見学客を守る防球ネット、歓迎のぼりを設置した。
平成28年度春季キャンプも、昨年と同様、日程・天気が良く金本監督の注目が集まり、マスコミや県外からの集客が大幅に増加した。客席スタンドを増やした効果もあり、練習試合での動員数も多い。

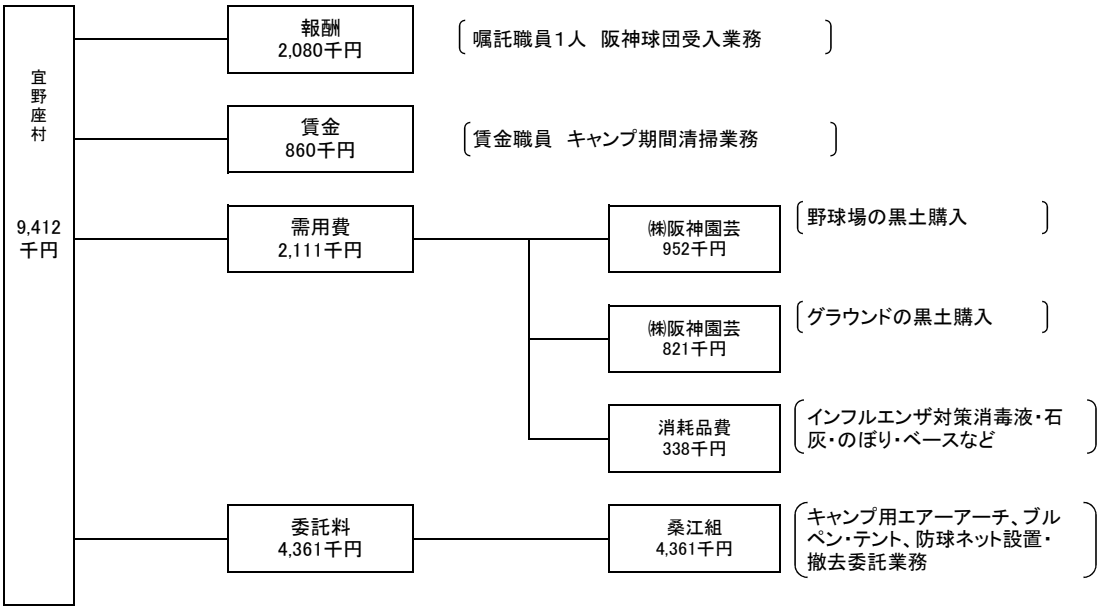
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成28年度、阪神タイガース春季キャンプ観客動員数は111,300人となっております。練習試合やサイン会、ファンサービス等を実施する日は会場が特に混雑する為、事前に事故を防ぐ必要があります。立入禁止区間等を設置や混雑によるトラブルを防ぐなど臨機応変に対応し、選手やファンにとってもより良いキャンプ地にする必要があります。また、村外から来村する観客が自動車や観光バス、レンタカーを利用して来村するため、球場周辺は交通渋滞が起きています。交通事故を防ぐためにも今後も球場内外の警備や誘導員を強化していきます。 ・見学者数については、チームの成績や人気選手の参加、天候、紅白試合、練習試合の人気チームに左右される。	・平成28年度の反省を踏まえ、安全対策等の強化を図る必要がある。 ・球団の新人選手に対し、本村の観光施設等を利用した体験等を実施してもらい、その取材に訪れるマスコミを活用して誘客効果を生み出す。 ・球団、観光協会、商工会との連携を継続して行い、新たな効果を生み出す。

今後の取り組み方針

・安心して見学できるキャンプ環境施設を強化していく。
・集客の多い練習試合、紅白戦を増やすよう球団へ要望していく。
・来場者が安全に休めて本村の観光誘客へ結ぶ場所を提供していく。
・継続して、毎年新たなキャンプ情報の提供や阪神協力会会員確保に向けて取り組む。
・宜野座村観光協会及び宜野座村商工会との連携をしながら年間を通した誘客を図り観光振興、産業振興につなげ新たな波及・派生効果を継続して取り組む。
・球団の本拠地である兵庫県及び関西からの誘客事業として新たな展開につなげるため、球団関係者、宜野座村観光協会と連携していく。
・キャンプ期間中だけでなく通年で阪神タイガース球団と連携を取り、イベントの開催や阪神タイガース博物館等の検討。村全体でキャンプ地として盛り上げる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
9,412	9,412	7,530	1,882	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、指名競争入札により決定したため妥当であった。 ・予算規模については、見積りを徴取して精算しており、適正な規模であった。 ・費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-②	宜野座村文化のまちづくり魅力発見事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－2－（7）－イ 交流と共創による農山漁村の活性化
担当部課名	観光商工課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－3－（2）

事業内容

教育・観光振興、人材育成を図るとともに、宜野座村の魅力をアピールし村全体の活性化を図るために、宜野座村文化センターがらまんホールを中心に、文化イベント事業の開催や、お出かけアウトリーチ事業（ホール外の地域内外へ飛び出して、多くの方に芸術の魅力を伝える。また、観光地などの拠点等で開催することにより観光産業、地域振興ともリンクするイベントを行うこと）や国際交流イベント事業を行う。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	25,707	12,190	13,000	13,000	18,000
	(b) 予算現額	28,316	12,529	15,999	40,007	18,000
	(c) 増減額 (b-a)	2,609	339	2,999	27,007	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	0
	A. 計 (b+d)	28,316	12,529	15,999	40,007	18,000
B. 執行済額		28,316	12,529	15,999	40,007	18,000
うち交付金充当額		20,565	9,752	12,799	31,605	14,400
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明：当初計画していた事業内容を実施したので適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
・芸術文化・伝統芸能公演の開催数（28回）	目　標	（22回）	（26回）	（26回）	（28回）
	実　績	22回	25回	28回	34回
・お出かけ公演実施数（6公演）	目　標	（9回）	（15回）	（12回）	（6回）
	実　績	14回	10回	13回	8回
・子ども育成事業数（2回）	目　標	（1回）	（1回）	（40）	（2回）
	実　績	1回	1回	34	2回

達成状況説明：大人の音楽会、ライブハウスがらまん、がらまん映画上映会、がらまん文化講座、お出かけ公演（アウトリーチ）、宜野座村国際音楽祭、がらまん芝居公演、がらまん児童演劇祭、がらまんダンスショー、ハワイアンフラフェスティバル、ストリートダンスワークショップなど子供から大人までを対象とした幅広い事業展開を行い、がらまんホール中心としたイベント等の開催を達成することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（23年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
・芸術文化・伝統芸能公演の集客数 H26年：2500名、H27年：2500名、H28年：2300名	目　標	（　）	（2500）	（2500）	（2300）	（　）
	実　績		5257	4052	5758	
・お出かけ公演実対象者数 H26年：2650名、H27：800名、H28年：4500名	目　標	（　）	（2650）	（800）	（4500）	（　）
	実　績		4626	6780	8270	
・子ども育成事業人数（40名）（ストリートダンス教室、キッズフラダンス）	目　標	（　）	（30）	（40）	（40）	（　）
	実　績		23	34	47	

進捗状況説明：
・芸術文化・伝統芸能公演は目標どおり公演数を開催した。また、他イベント事業と同時開催したこと相乗効果で想定外の集客数となり、集客数も目標値を大きく上回った。
・お出かけ公演は、規模の大きい訪問先で事業を行うことによって対象者数の増加となった。
・子ども育成事業はストリートダンス、キッズフラダンス目標人数を上回った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	①偏りのない多様な芸術・伝統芸能公演を実施した。 ②観光客へのアピールもネット広告やホテルへのチラシ配布などで行った。	①これまでの事業を分析し、未分野の芸術文化事業を行う必要がある。 ②事業の対象者と費用対効果も考えしっかりアピールできるよう努める。

今後の取り組み方針

今後はその作り上げたものの継承、まだ未分野の芸術文化の紹介、さらにそれらを元に観光産業ともリンクして人的交流、国際交流を深め地域の文化振興、発展に寄与する方向を検討する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
18,000	18,000	14,400	3,600	0

宐野座村 18,000千円 → 委託料（18,000千円） → 宐野座村文化のまちづくり事業実行委員会（宐野座村文化のまちづくり 魅力発見事業に係る委託事業）

宐野座村 18,000千円 → 委託料（18,000千円） → 宐野座村文化のまちづくり事業実行委員会（宐野座村文化のまちづくり 魅力発見事業に係る委託事業）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先である実行委員会は、村内の各種団体の関係者で構成する委員会で、文化センター設立以来、がらまんホール事業の企画を行っており、その他事業所にはないため、委託事業所は妥当であったと考えている。 ○事業額を内容通り遂行したため、適正な規模であった。 ○使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時（検査）において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村

平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-③	宜野座村着地型観光誘客推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア
					観光リゾート産業の振興
担当部課名	観光商工課	事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)

事業内容

宜野座村の着地型観光を推進するため、本村の地域資源を活用した地域発信の観光事業を展開し、着地型観光商品の事業化に向けた取り組むとともに、地域企業等との連携を密にし、着地型観光受入の地域コーディネーターの強化、PR活動の必要な情報媒体の整備、イベント事業展開等の支援を行う。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
予算の状況	(a) 当初予算額	21,218	25,000	25,000	35,000	
	(b) 予算現額	16,350	25,000	25,000	34,741	
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,868	0	0	▲ 259	
	(d) 前年度繰越額	0	0	0	0	
	A. 計 (b+d)	16,350	25,000	25,000	34,741	
B. 執行済額		16,350	25,000	25,000	34,741	
うち交付金充当額		13,080	20,000	20,000	27,793	
次年度繰越額		0	0	0	0	
執行率（%）(B/A)		100.0%	100%	100%	100%	

予算の状況の説明：当初計画していた事業内容を実施したので適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
観光誘客プロモーション活動（年間） イベントの開催（3回） 先進地視察研修（2回）	目　標	（観光誘客プロモーション実施）	（観光誘客プロモーション実施）	（観光誘客プロモーション実施）	（観光誘客プロモーション実施 イベントの開催（3回） 先進地視察研修（2回））
	実　績	観光誘客プロモーション実施	観光誘客プロモーション実施	観光誘客プロモーション実施	観光誘客プロモーション実施 イベントの開催（3回）実施 先進地視察研修（2回）実施

達成状況説明：宜野座村観光推進に向けて、年間を通して県外観光PR活動を展開。地域についても大都市東京をはじめ、宜野座村にゆかりのある地域に出向いてのPR活動が出来た。また、地元宜野座村からは、観光案内所コーナーを設けてパンフレットの配置配布や映像によるPR、WEB上での情報発信も同時展開を行った。その他にも本村を知るきっかけとして、沖縄バーガーフェスタを始め3回のイベントも展開し一過性ではあるが、一度に多くの県民が本村へ足を運ぶ仕組みを創り出せた。各事業とも計画どおり円滑に実施することができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
宜野座村の観光入込客数(20万人)	目　標		19万人	19万人	20万人	（　）
	実　績		17万人	22万人	25万人	
イベント開催（3回）	目　標			5人	3回	（　）
	実　績			6人	3回	
視察地で本村の観光PRが発信できる連携を構築する(年間)	目　標			年間	年間	（　）
	実　績			6回	6回	

進捗状況説明：観光案内所を設置した事で、普段から県内外のお客さんが来館するようになった。プロ野球春季キャンプの影響で観光入客が多い。来館のお客さんにはパンフレット等を通して、着地型観光情報を発信した。併せて自らが県外に出向きPR活動をする事で、知るキッカケを造りだせた。配布用のパンフレット作成、日々の情報発信の出来る、情報誌掲載・WEBによる情報発信を行った。

沖縄バーガーフェスタやぎのざフラワーフェスタ、平成28年度より新しくサマーフェスタのイベントを開催することで一時的に誘客を図り、多くの方に訪れる機会を造りだせた。

観光ノベリティグッズに関しては、プロモーション活動の際に手に取ってもらいやすいノベルティを作成し、効果的に配布出来るように行った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・観光案内所を利用する方やイベントで来村する方へ、パンフレット等を通して、旬の情報提供を行い、リピーターとして訪れてもらうよう情報発信の仕組を強化していく必要がある。 ・フラワーフェスタでは、会場のみの集客はあったが、村内を周遊できる仕組みづくりの検討が必要である。 ・観光カレンダーについては、。利便性を向上させるための検討が必要で、県外の方が手に取って活用できるような工夫が必要である。 ・ガイド育成講座を行いながら、観光資源の発掘及びガイド人材の確保が課題である。 ・民泊先進地研修を受けて、民泊推進に伴う、民家に関わる法令取得の確保が課題である。	・観光客が訪れる機会は多くなってきているが、更なる増加を図るために、先進地を参考に宜野座村に合った観光案内所へと強化していきたい。 ・教育旅行の更なる誘客を図るために、学校関係者へ直接リーチ出来るような冊子作成が必要。 ・イベント運営の改善や更なる誘客を図るため、目新しい取組ができる可能性を探りながら、他には無いイベントを企画する必要がある。 ・一時的な誘客イベントだけではなく、定期的に宜野座村に訪れる機会を創りだすための取組みも必要。 ・県内観光客の集客及び認知度向上を図るために、県内でのプロモーション活動も必要。

今後の取り組み方針

・沖縄県への観光客は年々増加しており、インバウンド観光により海外からの旅行者の伸び率も高いです。また観光旅行だけでなく、スポーツキャンプやリゾートウエディングなど「観光」の形も多様化している。その外国人観光客への外国語対応やスポーツキャンプの受入れ誘致強化が必要である。
・県内外の観光案内所の視察を行い、案内所の充実を図っていく。
・姉妹町村での、誘客活動を行いながら、認知度向上及び交流連携を図っていく。
・フラワーフェスタ、サマーフェスタ、バーガーフェスタでのイベントPRを強化し、認知度を上げていく。
・県民が利用する大型商業施設内で、県外からの誘客だけではなく県内観光客への誘客活動を展開し、集客及び認知度向上を進める。
以上の課題が見えてきているので、その解決に努めます。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
34,741	34,741	27,793	6,948	0

宜野座村 34,741千円 → 委託料 34,741千円 → 宜野座村観光協会 34,741千円

・観光案内所設置
・県外観光PR活動
・ノベリティーグッズ商品開発
・観光プログラム開発事業
・観光人材育成事業
・イベント事業
・観光プロモーション事業

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、本村を特化した観光を推進する事業所となっており、その他事業所にはないため、委託事業所は妥当であったと考えている。 ・事業額を内容通り遂行したため、適正な規模であった。 ・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時（検査）において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-④	宜野座村美ら島花火大会事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	観光商工課	事業実施（予定）年度	平成28～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	秋の行楽シーズン、スポーツの盛んな季節において、宜野座村を訪れている観光客等に対し、宜野座村の観光資源である、プロ野球阪神タイガースのキャンプ施設等のある農村公演を中心とした場所において、大花火大会を開催し宜野座村の魅力を発信することにより観光振興を図る。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	6,000				
	(b) 予算現額	6,000				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	6,000				
B. 執行済額		5,976				
うち交付金充当額		4,780				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		99.6%				
予算の状況の説明		当初計画していた事業内容を実施したので適正であったと考えている。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
花火打上	目　標	（1,000発）	（　）	（　）	（　）
	実　績	1,000発			
PRチラシの作成	目　標	（35,000枚）	（　）	（　）	（　）
	実　績	36,000枚			
警備員の配置	目　標	（15名）	（　）	（　）	（　）
	実　績	15名			

達成状況説明

PRチラシを作成し、新聞折り込みによる周知を図ることができた。また、警備員の配置を行い、安全を確保することにより、1,000発の花火を打ち上げることができた。来訪者より好評の声が多かった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		28年度	29年度	30年度	31年度	目標値（　年度）
村内入込客数3%増（花火大会）	目　標	（12,360人）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	13,500人				

進捗状況説明

宜野座村美ら島花火大会を開催することにより、入客数の増を図ることができ、宜野座村の新たな魅力を発信することができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	①宜野座村美ら島花火大会を開催することで、宜野座村に新たな観光資源を創ることができた。 ②花火大会に訪れた人の満足度が高かったが、周辺住民から花火打上の花火カスの安全対策の問題点が上がった。	①来場者からは好評の声が多かった。 ②平成28年度の反省を踏まえ、事前に打上場周辺住民への対策周知を数回にするなど、安全対策を強化していく必要がある。

今後の取り組み方針

・多くの来訪者から好評の声があったため、今後、事業を継続していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
5,976	5,976	4,780	1,196	0

- 需用費 346千円
  - ﾎﾟﾝﾁｮﾃﾞｻﾞｲﾝGON 346千円 ― チラシ印刷、新聞折込
- 委託料 5,630千円
  - ㈱沖縄花火 2,999千円 ― 花火打上委託業務
  - ㈱南日本警備保障 449千円 ― 会場警備委託業務
  - ㈱エムズ 1,188千円 ― 会場設営委託業務
  - ﾋｭｰﾏﾝﾈｯﾄﾜｰｸ GINOZA 994千円 ― ステージイベント委託業務

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、指名競争入札により決定したため妥当であった。 ○事業額を内容通り遂行したため、適正な規模であった。 ○使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時（検査）において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑤	漢那ビーチ観光客受入態勢整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－（ウ） 観光客受入体制の整備
担当部課名	観光商工課	事業実施（予定）年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1
事業内容	宜野座村の観光拠点の一つである漢那ビーチが観光客にとって安心・安全かつ快適に利用できるよう必要不可欠なハブクラゲ防止ネットを購入し環境整備を行う。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		28年度				
予算の状況	(a) 当初予算額	6,918				
	(b) 予算現額	3,780				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,138				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	3,780				
B. 執行済額		3,780				
うち交付金充当額		3,024				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				

予算の状況の説明

当初、海上オートバイやテント等の備品の購入も予定していたが、現場の状況を踏まえ再調整した結果、購入しなかったため８月補正で3,138千円を減額した。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度			
ハブクラゲ進入防護ネットの整備	目　標	（　整備の実施　）			
	実　績	整備完了			

達成状況説明

漢那ビーチ開業に合わせてハブクラゲ進入防護ネットの整備が完了した。
整備前は、ネットの老朽化による危険生物被害の報告があったが、整備後はネットの機能強化も図られ被害報告はなくなり、利用者が安心・安全かつ快適に利用できるようになった。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		28年度				
ハブクラゲ進入防護ネットの整備完了	目　標	（　整備完了　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	整備完了				
【参考指標】 ビーチ開設期間利用者数	目　標	（　4,000人　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	4,308人				

進捗状況説明

平成27年度のビーチ開設期間利用者数は、2，252人であったが、平成28年度においては4，308人と目標人数に達することができた。
ネット整備を行い、安心・安全にビーチを利用することができるようになったことで、宜野座村観光協会主催のサマーフェスタin漢那ビーチやアパレルメーカーROXYによるイベントを開催することができ、利用者数の目標を上回ることができた。
今後もイベント誘致及び漢那ビーチ利用を促進を図っていく。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	整備前は危険生物の被害の報告もあったことから、より安心・安全にビーチを利用できるよう、ネットをより頑丈で編み目を細かく、また高波でも侵入を防げる構造に整備した。 ネットをより長い期間、より良い状態で使用できるよう工夫が必要。 これまで、危険生物の進入を完全に防ぐことができておらず、ビーチ利用者に不愼な思いをさせていた状況や、ビーチ開設と平行してマリンメニューを行えていなかった状況もあり、利用者数が年々減少傾向にあったことから、漢那ビーチの周知及び利用者誘致の強化を図る必要がある。	これまでのネットの管理方法を見直し、改善策を指定管理者へ指導を行う。 指定管理先を見直し、管理運営を強化する。 多様なマリンメニュー開発及び受け入れ態勢の強化を継続するとともに、安全性をPRし利用者の誘客、新たなイベントの企画及び誘致を図る。

今後の取り組み方針

指定管理先を周知や集客、イベント企画等に優れた観光協会へ指定し、マリンメニュー等を漁業協同組合と連携し行い、利用者の誘客促進、漢那ビーチの情報発信、観光収入の増加を目指す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,780	3,780	3,024	756	

宜野座村 3，780千円 → 備品購入 3，780千円 → 鹿児島漁網株式会社 3，780千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、見積りを徴取して精算しており、適正な規模であった。 ○費用・使途については、事業目的の観点から、必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑦	宜野座村観光情報発信看板設置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（2）－ウ 観光客の受入体制の整備
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	H28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（1）
事業内容	国道329号バイパスと沖縄自動車道宜野座インターとの交差点付近に、観光情報発信看板を設置することで、宜野座村を訪れる不特定多数の人々（村民、県民、観光客など）に対し、本村の観光情報を発信し、村の魅力を広くアピールすることにより観光誘客の増加を図る。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算の状況	(a) 当初予算額	41,094				
	(b) 予算現額	36,442				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,652				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	36,442				
B. 執行済額		36,442				
うち交付金充当額		29,153				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初基本計画の内容を踏まえながら、現場の状況、発信方法等について実施設計において再調整した結果、当初予算額よりも設計額が下がったことから減額となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
情報発信看板の設置	目　標	（　1基設置　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	1基設置			
達成状況説明	平成28年度での目標・実績は1基の看板設置であったことから、設置工事が完了している為、目標どおり達成されている。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		28年度	29年度	30年度	31年度	目標値（　年度）
情報発信看板の設置完了	目　標	（　整備完了　）	（　　）	（　　）	（　　）	（　　）
	実　績	整備完了				
進捗状況説明	計画どおり、村の玄関口である重要交差点付近にアピール度の高い情報看板の設置が完了したことで、今年度の目標を達成した。 平成29年4月より観光商工課を担当課として運用を開始し、各種情報を発信していく。					

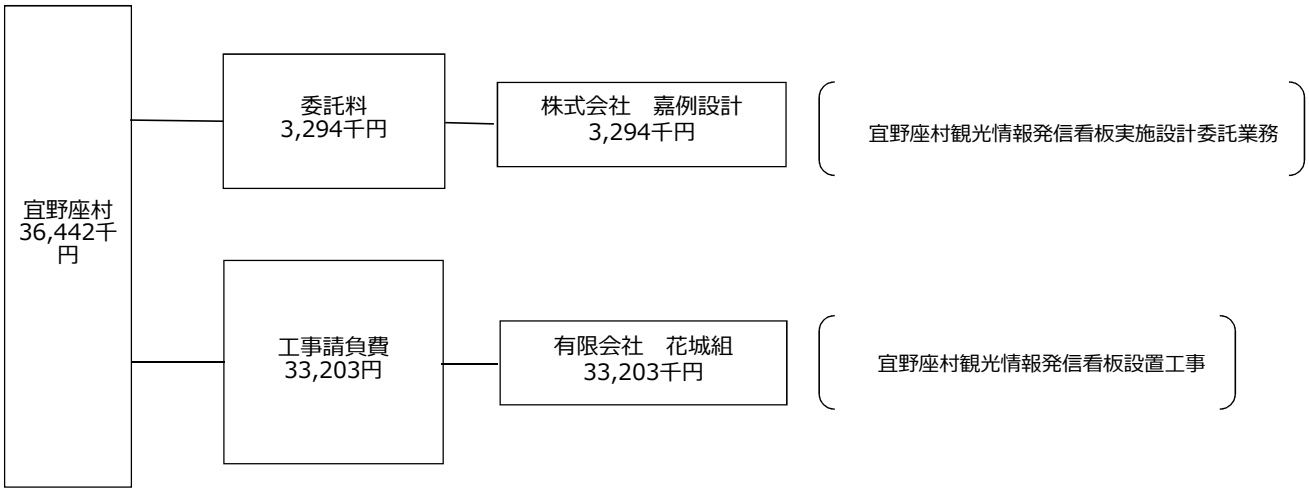
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本村は沖縄本島の中心に位置し、沖縄自動車道のICもあるため、訪れる観光客は増加傾向にある。しかし、その観光客に伝わる情報発信も十分ではなく、通過型観光となってしまっている。 宜野座IC付近に観光看板を設置し滞在型の観光地化を進め、村内での消費拡大に努めるため、観光看板の有効的な活用を進めていく必要がある。	観光情報発信看板の設置により村民だけでなく、宜野座ICから来村する観光入客者等、不特定多数の人々に対し魅力ある観光情報を発信することができる。行政、行政関係機関が実施しているイベント発信が主となるが今後は村内事業所にも積極的に看板を利用してもらい、村内の魅力の周知や発信に努めていく。見やすく伝わりやすい表示方法を模索していく。

今後の取り組み方針

今後、観光情報発信看板の管理は、村観光商工課の所管となり、村観光協会や村内事業者等の観光情報を含め掲示物及び掲示内容について発信、管理を行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
36,442	36,442	29,153	7,289	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	宜野座村観光情報発信看板設置工事 ○委託業務・工事共に指名競争入札にて選定しているので妥当と考える。 ○予算規模については、実施設計時に見直しも含め圧縮した経緯もある為、適正と考える。 ○費目については、委託料と工事費のみで限定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－①	小学校学力向上対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成24～平成33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３

事業内容

児童一人一人が確かな学力と生きる力を身につけるとともに、ﾁｰﾑﾃｨｰﾁﾝｸﾞによる指導で判断力、思考力、表現力とねばり強さを育て、学習の基礎･基本の確実な定着を図っていくため、村内小学校に学習支援員配置する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	11,290	7,680	7,680	9,920	13,440
	(b) 予算現額	9,652	7,680	7,012	9,920	13,440
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,638	0	▲ 668	0	0
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	9,652	7,680	7,012	9,920	13,440
B. 執行済額		9,652	7,680	7,012	9,920	13,331
うち交付金充当額		9,032	6,144	5,609	7,936	10,664
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.2%

予算の状況の説明：学習支援員を配置し、計画通り執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
支援員配置数：7人	目　標	（ 4 ）	（ 4 ）	（ 6 ）	（ 7 ）
	実　績	4	4	6	7
支援児童数　478人	目　標	（　　）	（　　）	（ 445 ）	（ 478 ）
	実　績			441	478

達成状況説明：本年度目標の小学校学習支援員7名を配置し、村内三小学校の児童478人に対して担当教員との連携を図りながら授業を行うことができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
全国学力学習調査正答率の県平均との差 国語A･B、算数A･B：県平均以上	目　標	（　　）	（国語AB 60.0% 算数AB 65.5%）	（県平均以上）	（県平均以上）	（　　）
	実　績		国語AB 62.6% 算数AB 66.1%	国語A(0.8) 算数A(-1.4) 国語B(-5.5) 算数B(-2.1)	国語A(3.6) 算数A(-1.9) 国語B(2.5) 算数B(1.1)	

進捗状況説明：平均正答率で国語Bに関しては、若干落ちたが、その他の教科については、前年度よりも改善が見られた。また、算数A以外は、県平均を上回ることができ、成果目標をほぼ達成することができた。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	学習支援員の指導力の向上や効果的な活用を推進し、児童の学習意欲の向上と基礎学力の定着を図ることが必要である。 また、担当職員と連携を取り、更なる授業の改善が必要である。	学習支援員の研修会の実施や効果的な活用の検討が必要である。 全国学力学習調査結果の分析を行い、どこに課題があるのかを実態把握し、担当職員との意見交換や情報共有を図り、授業の改善を行う必要がある。 また、学習支援員が中間層の児童に重点を置いて支援することにより、全体的なレベルアップに努める。

今後の取り組み方針

全国学力学習調査の結果が県平均を上回ることを目標に、学習支援員を継続して配置し、基礎学力の向上を目指す。また、学習支援員の指導力の向上を図るため、研修会の実施や学校訪問（授業参観）による直接的な支援を行い、担当職員との意見交換や情報共有の場を設ける。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
13,331	13,331	10,664	2,667	0

宜野座村 13，331千円 → 報　酬 13，331千円 → 学習支援員（7人） 13，331千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の選定については、学校教育指導主事の意見等も参考に面接を実施して選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○学習支援員配置の予算は、宜野座村学習支援員の報酬額により計上されている。支援員の配置人数についても、学校等のヒヤリングにより決定しており、適正であった。
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○児童の学力向上を目的として配置している。

市町村名	宜野座村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－②	中学校学力向上対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成24～平成33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３

事業内容

生徒一人一人が確かな学力と生きる力を身につけるとともに、ﾁｰﾑﾃｨｰﾁﾝｸﾞによる指導で判断力、思考力、表現力とねばり強さを育て、学習の基礎・基本の確実な定着を図っていくため、村内中学校に学習支援員(習熟度別対応支援員)を配置する。

実施方法

■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,120	7,200	7,200	7,200	12,000
	(b) 予算現額	5,111	7,200	6,807	7,200	11,200
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 9	0	▲ 393	0	▲ 800
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	5,111	7,200	6,807	7,200	11,200
B. 執行済額		5,111	7,200	6,807	7,200	11,200
うち交付金充当額		4,089	5,760	5,445	5,760	8,960
次年度繰越額						
執行率 （%） (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

予算の状況の説明：学習支援員を配置し、計画通り執行できた。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
支援員配置数：5人	目　標	（ 3 ）	（ 3 ）	（ 3 ）	（ 5 ）
	実　績	3	3	3	5
支援生徒数：202人	目　標	（ 191 ）	（ 194 ）	（ 206 ）	（ 202 ）
	実　績	193	196	209	201

達成状況説明：本年度目標の中学校学習支援員5名を配置し、中学校の全校生徒201人（計画時より1名減）に対して担当教員との連携を図りながら授業を行うことができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
沖縄県学力到達度調査正答率の県平均との差 国語、数学：県平均以上	目　標	（　　）	（ 国語AB 60.0% 数学AB 41.3% ）	（ 英語 数学 理科 （県平均3%以内） ）	（ 国語 数学 県平均以上 ）	（　　）
	実　績		国語AB 53.6% 数学AB 45.6%	英語（ -7.1%） 数学（ 3.7%） 理科（-12.3%）	中1数学（1.2） 中2国語（-3.7） 中2数学（-2.8）	

進捗状況説明：沖縄県学力到達度調査の実施対象が中学1年は数学のみ、中学3年生は到達度調査対象外となっており、中1数学、中2の国語数学で県平均以上を達成することを目標とした。
中1数学では達成できたが、中学2年の国語及び数学において県平均を下回っている。この状況を打破するために基礎基本の確実な定着を図る必要がある。今後も課題や問題点の改善を図り、学力の向上を目指す。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	学習支援員の人材確保が困難である。また、沖縄県学力達成度調査の結果では、中学2年生の国語及び数学が県平均を下回っており、生徒の学習意欲の向上と基礎学力の定着を図ることが必要である。	学習支援員を確保するため、学習塾業者に学習支援員の派遣を委託し、人材配置についての課題を解消する。 学習支援員の効果的な活用を検討し、授業の改善、補習授業などを行い、学力の向上を図る。 また、学習支援員が下位層の児童に重点を置いて支援することにより、全体的なレベルアップに努める。

今後の取り組み方針

全国学力学習調査の結果が県平均を上回ることを目標に、安定して学習支援員を配置することができるよう学習塾業者に委託し、人材を確保する。また、中学校の教諭と派遣支援員が連携を図り、授業の改善や補習授業等が実施できるよう協議していく。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,200	11,200	8,960	2,240	0

宜野座村 11，200千円 → 報　酬 11，200千円 → 学習支援員（5人） 11，200千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点　検　項　目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員の選定については、学校教育指導主事の意見等も参考に面接を実施して選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○学習支援員配置の予算は、宜野座村学習支援員の報酬額により計上されている。支援員の配置人数についても、学校等のヒヤリングにより決定しており、適正であった。
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○生徒の学力向上を目的として支援員を配置している。

市町村名	宜野座村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－③	幼稚園預かり保育事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア 確かな学力を身につける教育の推進
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３
事業内容	親子が健やかで安心して日常生活を送れるような支援を充実するため、幼稚園において預かり保育を実施する。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,975	9,200	9,200	7,360	7,360
	(b) 予算現額	4,471	7,288	8,331	7,125	7,360
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 3,504	▲ 1,912	▲ 869	▲ 235	0
	(d) 繰越額	0	0	0	0	
	A. 計 (b+d)	4,471	7,288	8,331	7,125	7,360
B. 執行済額		4,471	7,288	8,331	7,069	7,250
うち交付金充当額		3,576	6,664	6,664	5,655	4,666
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	99.2%	98.5%

予算の状況の説明：平成28年度は減額補正を行っていない。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 25年度	26年度	27年度	28年度
預かり保育員配置数：4名	目　標	（　4名　）	（　5名　）	（　4名　）	（　4名　）
	実　績	4名	5名	4名	4名

達成状況説明：平成28年度目標の預かり保育担当4名配置を達成し、親子が健やかで安心して日常生活を送れる体制を整えることができた。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
預かり保育希望園児の受入率：100%（預かり保育受入可能園児数：70名）	目　標	（　）	（　60　）	（　70　）	（　70　）	（　）
	実　績		66	84	77	

進捗状況説明：平成28年度は、預かり保育担当を4名配置し、村立3幼稚園において、預かり保育受入児童数の目標を上回る77名の園児の預かり保育を実施した。今後も受入率100%を目標にし、達成できるよう努めていきたい。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・平成28年度は、預かり保育担当4名を配置し、村立3幼稚園において園児77名の預かり保育を実施することができた。 ・預かり保育担当を月に一度集め、情報交換会を行った。また、保護者向けアンケートを実施し、ニーズ等を把握することができた。	・平成29年度は、前年度同様に月1回の情報交換会を継続していく。また、必要に応じて研修会を実施し、預かり保育担当の質の向上に努める。

今後の取り組み方針

月に一度の預かり保育担当の情報交換会を継続して実施していく。また、必要に応じて研修会を実施し、質の向上に努め、保護者のニーズ等に対して適性に判断・対応できる体制の構築を目指す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,250	5,833	4,666	1,167	1,417

宣野座村
5,833千円
→
報酬：預かり保育支援員（4名）
5,833千円

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	－	支出先の選定方法は妥当か。	預かり保育の配置は、3幼稚園で最少必要人数4名の配置で適正な規模となっている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	２－④	宜野座村ジュニア海外語学研修派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(1)-イ 世界と共生する社会の形成
担当部課名	教育課	事業実施（予定）年度	平成28～33年	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－３
事業内容	夏休みを利用し、村内の中・高校生6人を英語圏へ短期間派遣し、語学研修を実施する。生きた英語に触れることにより、今後の英語学習への意欲を高め、また異文化体験することにより、広い視野で物事を捉える人材育成を目指す。				
実施方法	■直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		28年度				
予算の状況	(a) 当初予算額	3,600				
	(b) 予算現額	4,563				
	(c) 増減額 (b-a)	963				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	4,563				
B. 執行済額		4,142				
うち交付金充当額		3,261				
次年度繰越額		0				
執行率（%）(B/A)		90.8%				
予算の状況の説明		軽微の変更により、引率者1名、選考試験委託業務を追加し、当初より事業費の増額となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況			
		28年度			
海外ホームステイへの派遣：中・高校生6人	目　標	（　6名　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	6名			
達成状況説明	中・高校生6名の派遣ができた。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		28年度				目標値（　年度）
ホームステイを実施することにより、今後の英語学習への意欲を高め、異文化交流をすることにより、広い視野で物事を捉える人材育成を目指す。	目　標	（　3回　）	（　）	（　）	（　）	（　）
	実　績	3回				
進捗状況説明	・平成28年7月20日～8月9日の21日間、中高生6名をアメリカ合衆国ハワイ州へ派遣することができた。 帰国後のフォローアップとして、報告書の作成、村内3小学校での研修報告会を実施することができた。					

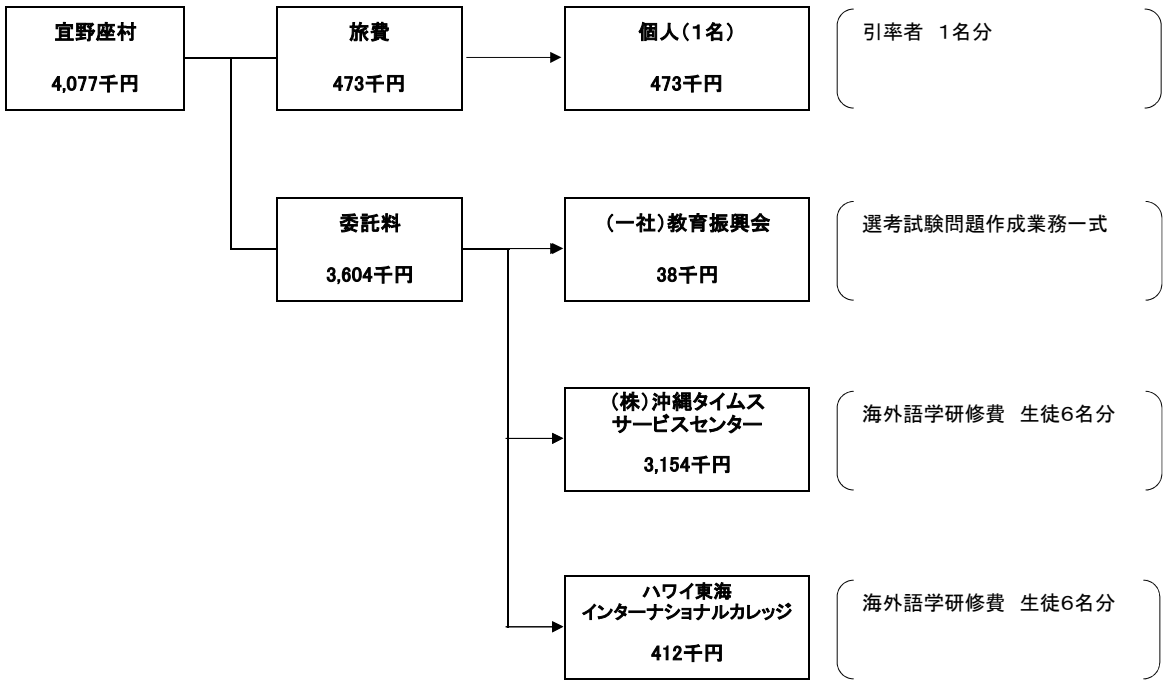
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・初めてハワイの現地大学、宜野座村人会との交流、業者委託によるホームステイ事業を実施し、英語学習の意欲を高めることができた。 ・帰国後は村内の各小学校にて報告会を行い、児童生徒の英語学習への興味、意欲を引き出すことができた。	・業者委託でのホームステイを廃止し、現地大学での語学研修を集中的に実施し、実践的な英語学習とその意欲を高める。

今後の取り組み方針

・ハワイの現地大学での語学研修、宜野座村人会の関係者宅でのホームステイ・交流を実施し、より広い視野で物事を捉える人材育成を目指す。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
4,142	4,077	3,261	816	65



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者は、ハワイ州でのホームステイ事業の実績があるのが1社のみであること等をふまえ、沖縄タイムスサービスセンターと随意契約を行った。また、1週間程度の短期語学研修プログラム等を実施していることから、ハワイ東海インターナショナルカレッジと随意契約を行った。 ○予算規模は適正であった。 ○受益者との負担関係は妥当であった。 ○費目、使途については、検査を実施しており、目的に即し、必要なものであった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－①	有機の里宜野座村確立事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－（7）－ウ 農林水産物の安全・安心の確立
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	平成２４～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－（6）

事業内容	有機の里宜野座村を目指し、推進協議会、部会を開催する。専門技術員による栽培指導を実施し、安定した農産物の生産拡大を図り、エコ農産物の有利販売拡大を行う。
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,802	11,754	23,842	12,052	11,661
	(b) 予算現額	5,406	12,974	11,652	11,433	11,321
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,396	1,220	▲ 12,190	▲ 619	▲ 340
	(d) 繰越額	－	－	－	－	－
	A. 計 (b+d)	5,406	12,974	11,652	11,433	11,321
B. 執行済額		5,406	12,974	11,519	11,336	11,315
うち交付金充当額		4,324	10,379	9,215	9,069	9,051
次年度繰越額		0	0	0	0	0
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%	98.9%	99.2%	99.9%

予算の状況の説明：当初計画した事業内容を実施し、活動目標、成果目標の達成状況を鑑みて、適正であったと考えている。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
エコファーマーの認定に向けた栽培指導及び生産拡大	目　標	480回 110トン	480回 120トン		
	実　績	497回 **90トン**	503回 **92トン**		

達成状況説明：農業技術員による有機農法及びエコファーマー認定の栽培指導を行い、120トンの生産目標に進めてきたが、暖冬により植え付け時期が若干おくれたことから、26トン分の収穫が平成29年4月にずれ込んだ。この結果、平成28年度中の生産量は**92トン（77%）**となったが、4月にずれ込んだ分の収穫を含めると118トン（98%）の生産となり、ほぼ計画どおりに行うことが出来た。平成27年度と比較すると実質28トンの増産となった。増産の要因は、夏場に出荷可能な品目を取り入れ農家が年間通して出荷出来る体制づくりを推進したことによるものと思われる。エコ農産物の有利販売については、消費者に対するエコ農産物の認知度が低いものと思われることから、有利販売につながっているか評価出来ていない状況である。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（　年度）
エコファーマーの認定数	目　標	（　）	（2名）	（2名）	（2名）	（　）
	実　績		8名	3名	2名	
エコ農産物販売量	目　標	（　）	（80トン）	（110トン）	（120トン）	（　）
	実　績		62トン	90トン	92トン	

進捗状況説明：専門指導員のアドバイスにより、2名の方がエコファーマー認証を取得した。エコファーマー認定農産物の生産安定・生産拡大を図る為、農業技術営農指導を行った。平成28年度の販売量は、26トン分の収穫が平成29年4月にずれ込んだことから92トン（77%）となり目標にはとどかなかったが、4月にずれ込んだ生産数量を含めると118トン（98%）であり、ほぼ計画どおりに生産することが出来た。エコ農産物の有利販売拡大については、エコ農産物の周知活動が不十分である。事業の進捗状況等については協議会・部会を開催し、状況報告を行った。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本村は、平成22年3月、「有機の里宜野座村」を宣言し、安心・安全なエコ農産物の生産・販売に取り組んだ。エコファーマー認定者は平成24年度から平成28年度までに31名となり、平成33年度までの計画認定者目標数30名を達成した。「安心・安全な農産物づくり」の技術向上に向け、農家指導を継続して実施し、生産量は増加しているが、年度末時点では目標生産量達成していない。目標を達成出来なかった理由は暖冬により植え付け時期が若干遅れたことに伴う収穫時期のずれ込みであることから、今後暖冬の際の対応を検討する必要がある。又、生産農家による土作りから出荷までの管理体制、農産物の病気や気象状況対応、農産物の安定生産及び生産量の拡大が課題となっている。また、農家が年間を通して作物を出荷出来るよう夏場に出荷可能な品目の生産及び販売体制の強化も必要である。	農業技術指導員の配置により、農家の生産技術の確立のため、土作りから出荷までの生産体制並びに病害虫防除指導等を継続して指導・助言を行い、また、暖冬時の対応についても農家と共に検討を行い、更に夏場に出荷可能な品目を取り入れることで年間を通した農産物の安定生産を図り生産量の拡大に繋げ農家所得向上を図る。又、エコファーマー認定者は計画どおり増加しているが、今後もエコファーマー認証取得のメリットを生産農家に周知し、認証取得者を増やすとともに、再認定を推進する。また、エコ農産物の内容が消費者に認知され、有利販売につながるように販売先でのポップ利用やチラシ配布など周知活動の強化を行っていく必要がある。

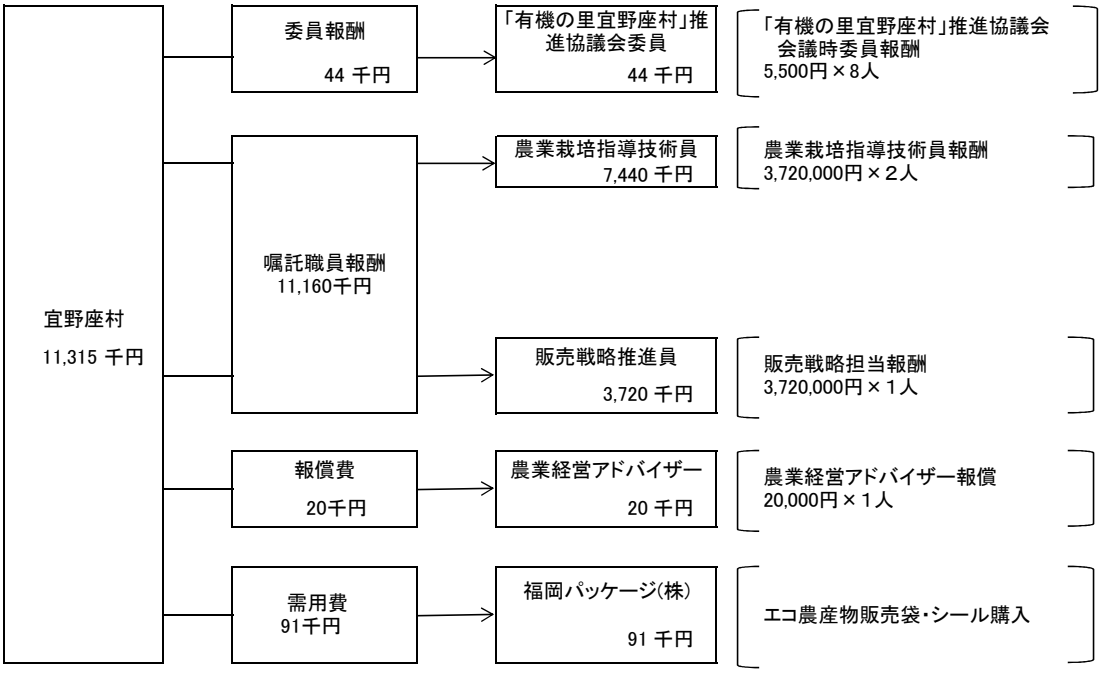
今後の取り組み方針

農家の生産技術の確立のため、生産農家を巡回し、土作りから出荷までの生産体制並びに病害虫防除等の技術指導を粘り強く継続して行い、通年安定した農産物の生産・並びに生産拡大を図る。又、エコ農産物の有利販売拡大のため周知活動の強化を図る。更に、本県は自然災害が多い為、災害に強い施設作りを推進する。

資金の流れ

（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,314	11,314	9,051	2,263	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○ロゴマークシール製作については見積を徴取し印刷発注したので妥当であったと考える。 ○人件費の費用については宜野座村嘱託職員・報酬月額表に基づき実施したので妥当であると考える。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の決定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	３－③	さとうきび営農指導委託事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章－3－(7)－(エ) 農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定等の強化
担当部課名	産業振興課	事業実施（予定）年度	２８～３２年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－1－(1)
事業内容	本村の基幹作物であるさとうきびの増産を図るため、営農指導員による管理作業の指導・担い手を確保し、さとうきび生産の活性化を図る。				
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算の状況	(a) 当初予算額	1,089				
	(b) 予算現額	973				
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 116				
	(d) 繰越額	－				
	A. 計 (b+d)	973				
B. 執行済額		973				
うち交付金充当額		778				
次年度繰越額						
執行率（%）(B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		月に8日程度、年間96日の指導日数を計画したが、5月交付決定に伴い6月から事業開始となったため2ヶ月分の予算残となった。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
適期管理作業の指導 新規栽培農家への直接指導	目　標	（適期管理作業の指導 新規栽培農家への直接指導）	（　）	（　）	（　）
	実　績	適期管理作業の指導 新規栽培農家への直接指導			
達成状況説明	平成28年度栽培農家193名に対し、のべ人数284名の農家に指導を行った。 新規栽培農家1名（夏植え）への指導。				

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）
生産量5%以上増加（過去5年間平均4,267t）	目　標	（　）	（5%以上増加）	（　）	（　）	（　）
	実　績		69%増加			
進捗状況説明	近年にない豊作の年となった。営農指導員による指導のもと、適期管理作業を行ったことや、自然災害による被害をほとんど受けてないことが、主な増産の要因と考えられる。また、農家から管理作業に関する問い合わせも多く管理作業への意識向上も図られた。					

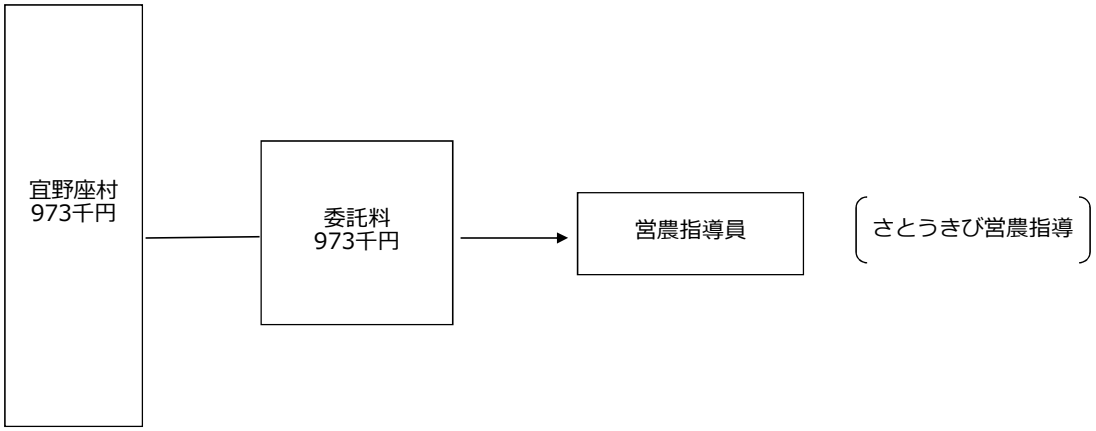
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	営農指導により、適期から作業が遅れる農家は少なくなったが、管理不足のほ場がまだ見受けられる。	指導員による、管理作業の指導を早期に実施し、管理不足にならないよう徹底して行う。

今後の取り組み方針

安定した生産が行えるよう、引き続き営農指導を行い、農家からの問い合わせにも迅速に対応する。また、指導を行えてない農家への指導を積極的に行う。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
973	973	778	195	



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託者はさとうきび栽培の知識や経験が豊富である個人と随意契約を行った。 ○宜野座村嘱託職員・報酬月額表及び賃金基準表を基に実施している。 ○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の決定時において支出等に関する書類により確認し、適正であった
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－①	観光景観向上対策事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー1ー(1)ー(イ) 陸域・水辺環境の保全
担当部課名	村民生活課	事業実施（予定）年度	平成２７～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(1)
事業内容	村指定の観光地周辺に不法投棄が多く、景観が損なわれているため、観光地ルートに専属の監視員を配置し、放置された不法投棄物の即時撤去を効率的に実施することで景観向上を図る。				
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他（　）				

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	23,659	4,040			
	(b) 予算現額	19,217	3,910			
	(c) 増減額 (b-a)	▲ 4,442	▲ 130			
	(d) 繰越額	ー	0			
	A. 計 (b+d)	19,217	3,910			
B. 執行済額		19,217	3,910			
うち交付金充当額		15,373	3,128			
次年度繰越額		0	0			
執行率（%）(B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		不法投棄パトロール、回収作業、粗大ごみ解体作業賃金職員の更新休み日数の減額。 消耗品数量の減による減額。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
・不法投棄監視カメラ及び観光箇所を中心にパトロールの強化。 ・ユニック付き2t車での不法投棄回収 ・フォーク付きユンボの粗大ごみ解体作業 ・人件費(重)1名、(中)1名	目　標	パトロールの実施 （　不法投棄回収　） 粗大ごみ解体	（　）	（　）	（　）
	実　績	パトロールの実施 不法投棄回収実施 粗大ごみ解体実施			

達成状況説明：これまで不法投棄のあった場所に設置されている監視カメラ周辺、観光箇所を中心にパトロールを強化しながら、これまで不法投棄されているゴミの回収作業、粗大ゴミの解体作業を継続して実施している。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（　年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（　年度）
・観光地ルートの景観向上（観光客等から宜野座村の自然環境や景観向上・美しさ等をアンケート調査し、事業成果をとりまとめる。）：満足度%	目　標	（　）	（70%　）	（70%　）	（　）	（　）
	実　績		96%	92%		
・観光地における不法投棄の減少:10件/年	目　標	（　）	（10件/年　）	（10件/年　）	（　）	（　）
	実　績		10件/年	0件/年		
【参考指標】 ［平成25年観光統計実態調査(平成26年3月)沖縄県文化観光スポーツ部」を参考にした。	目　標	（　）	（－　）	（－　）	（　）	（　）
	実　績		94%	94%		

進捗状況説明：
観光ルートに監視カメラを設置したことにより、年10件程度目標としていた重点箇所のカメラ周辺での不法投棄が見られなかったため、目標を達成できた。
定期的にパトロールすることにより、以前より不法投棄が減少したが依然としてそれ以外の箇所で発見されているので継続して取り組む。
また、達成状況の客観的確認として漢那ダムまつりにてアンケート調査を実施し、景観に対するアンケート調査を実施。景観に対する満足度は「大変満足」、「やや満足」の回答の割合の合計が目標70%に対し92%であった。「やや不満」、「不満」の回答割合の合計は2パーセントである。「沖縄県調査」と比較すると満足度がやや低いので継続が必要である。

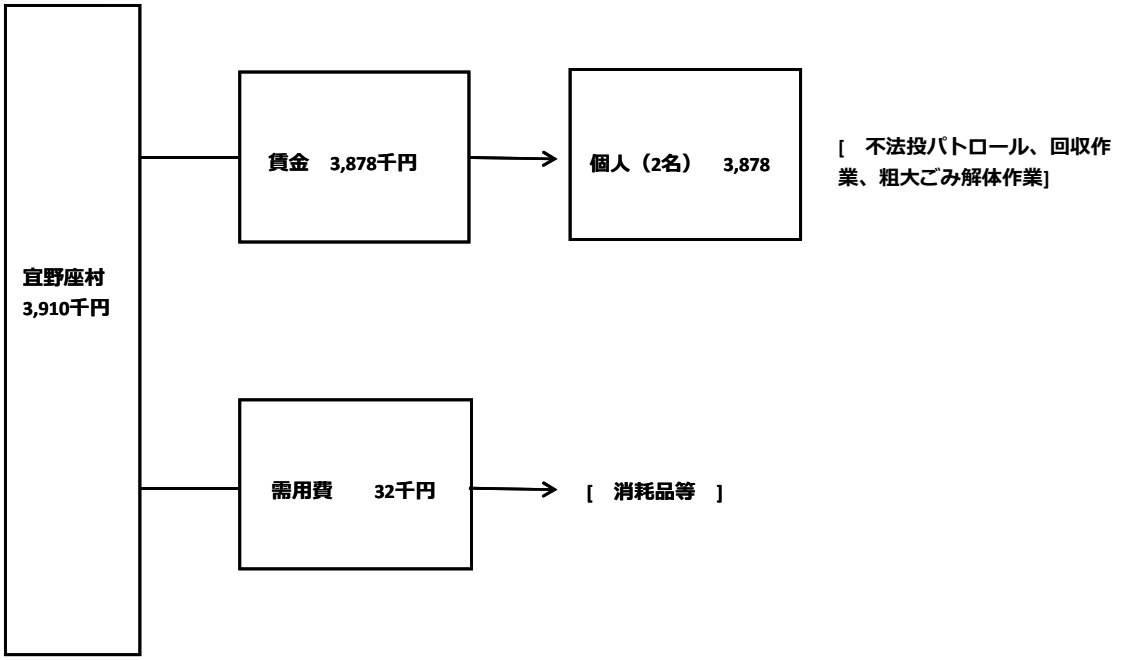
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	不法投棄が多く、景観を損ねる場所から回収を行い、監視カメラを設置することで不法投棄が減少された。しかし、監視カメラが届かない場所への不法投棄が懸念されるため、今後も監視パトロールの強化を行い、監視カメラの移動の検討や必要な場所には監視カメラの追加が必要である。	監視カメラ以外に、警戒中などの看板で不法投棄前に諦めるような環境にしていけば、不法投棄も確実に減少されることが見込まれる。

今後の取り組み方針

今後も定期的な不法投棄パトロールを実施し、また、監視カメラで不法投棄者を監視し、不法投棄の減少を図ることで着地型観光の推進につなげる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,910	3,910	3,128	782	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	賃金は、村の予算編成資料・賃金(傭人料)基準表により、支払われているので、妥当だと考える。
	―	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	消耗品も必要最小限購入されていて、妥当であったと考える。

市町村名	宜野座村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	４－②	危険生物駆除捕獲事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章ー1－(1)－(イ) 陸域・水辺環境の保全
担当部課名	村民生活課	事業実施（予定）年度	平成２７～３３年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－10－(1)
事業内容	外来種のタイワンハブやタイワンスジオ、ハチ等が村内で頻繁に発見されていることから、観光客や修学旅行生の咬傷事故が予想されるため、積極的に捕獲・駆除を行うことで、観光地としての安心・安全を図る。				
実施方法					

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算の状況	(a) 当初予算額	5,638	3,258			
	(b) 予算現額	5,638	3,258			
	(c) 増減額 (b-a)	0	0			
	(d) 繰越額	ー	0			
	A. 計 (b+d)	5,638	3,258			
B. 執行済額		5,638	3,258			
うち交付金充当額		4,510	2,606			
次年度繰越額		0	0			
執行率 （%） (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		事業計画通りに執行を行った。				

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 27年度	28年度	29年度	30年度
観光各所のパトロール：12回／月	目 標	（ 12回／月 ）	（ 12回／月 ）	（ ）	（ ）
	実 績	12回／月	12回／月		
パトロール・ハブ捕獲器設置場所：村境界付近50箇所	目 標	（ 50箇所 ）	（ 50箇所 ）	（ ）	（ ）
	実 績	194箇所	173箇所		

達成状況説明

臨時職員2名を雇用し、ハブ捕獲器にて捕獲・駆除を行った。また、マウスを飼育・繁殖し、誘引餌を確保した。設置場所目標の50箇所は、捕獲数が少ないため、目撃情報等を中心に173箇所に設置個所を増やし、パトロールを強化した。
ハチ対策については、パトロールを強化するとともに、情報が寄せられた場所に出向き駆除を行った。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（ 年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（ 年度）
観光地におけるハブ、ハチ等の苦情件数：0件	目 標	（ ）	（ 0 ）	（ 0 ）	（ ）	（ ）
	実 績		0	0		

進捗状況説明

観光地におけるハブ、ハチ等への苦情件数は0件であった。

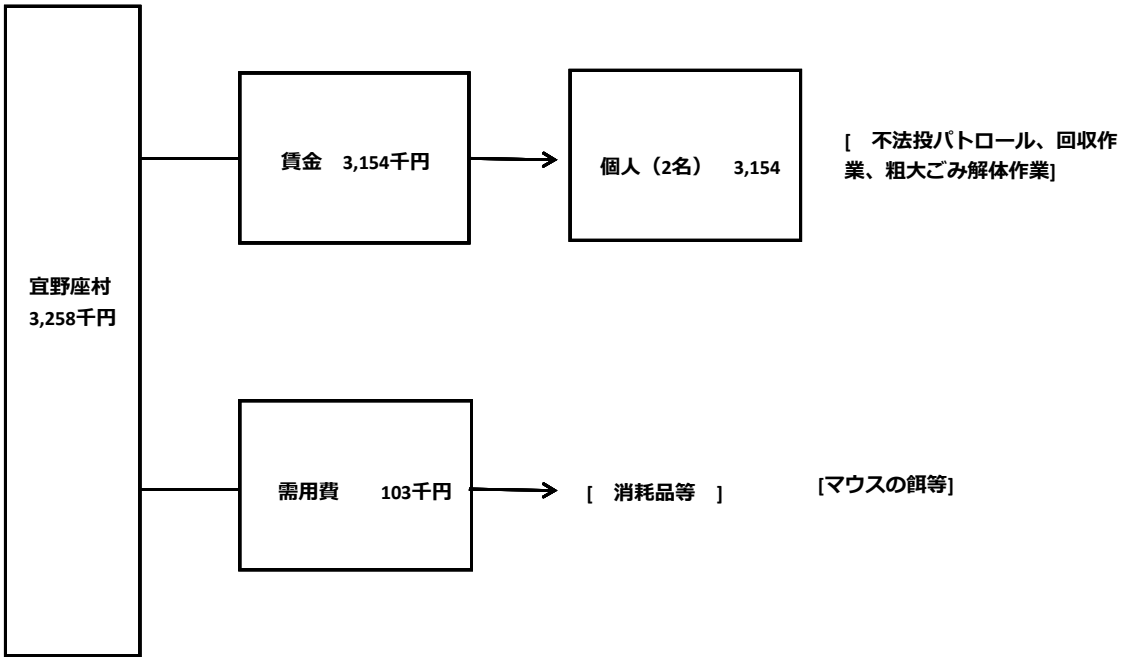
取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	捕獲については、目撃情報等を基に設置場所を移動したことによりハブ6匹、ヒメハブ2匹、アカマタ11匹が捕獲された。 捕獲箱の設置場所について、もっと捕獲出来る場所に移動する必要があるのか検証する。	捕獲箱の位置を目撃情報のある場所へ移動するなどの対応が必要である。

今後の取り組み方針

ハブ捕獲器を目撃情報が寄せられた場所に移動するなど、効果的に捕獲できる様に継続的に駆除することにより、個体の減少・拡散防止・人体被害を防止し、観光客の安全確保につなげる。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
3,258	3,258	2,606	652	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	賃金は、村の予算編成資料・賃金(傭人料)基準表により、支払われているので、妥当だと考える。 消耗品も必要最小限購入されていて、妥当であったと考える。
	―	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	―	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	宜野座村

平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	５－①	宜野座村人材育成・企業誘致等推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-ア 情報通信関連産業の立地促進
担当部課名	企画課	事業実施（予定）年度	Ｈ２８～Ｈ３３	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(2)

事業内容

定住人口増加の基盤となる雇用の創出を促進するため、企業の求める人材の育成、就労支援、広報普及活動、企業誘致活動等を行う。

実施方法

□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他（　）

予算額・執行額【単位：千円】（「交付金」＋「市町村負担」ベース）

		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
予算の状況	(a) 当初予算額	7,979				
	(b) 予算現額	7,979				
	(c) 増減額 (b-a)	0				
	(d) 繰越額	0				
	A. 計 (b+d)	7,979				
B. 執行済額		7,972				
うち交付金充当額		6,377				
次年度繰越額		0				
執行率 （%） (B/A)		99.9%				

予算の状況の説明

当初算出していた金額に比べて、人件費等に減額が出たことにより、金額が減となったため予算額が変更となった。

活動目標（指標）及び達成状況

H28活動目標（指標）		達成状況 28年度	29年度	30年度	31年度
人材育成・広報イベントの実施	目　標	（人材育成・広報イベントの実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	人材育成・広報イベントの実施			
企業招聘セミナー・ツアーの実施	目　標	（企業招聘セミナー・ツアーの実施）	（　）	（　）	（　）
	実　績	企業招聘セミナー・ツアーの実施			

達成状況説明

人材育成・広報イベントにおいては、中学生職場体験学習や名桜大学と連携したシステムズ特別講義といった人材育成事業を実施。広報イベントについても宜野座村まつりにおけるIT体験ブースを設置してのイベントを実施した。
企業招聘セミナー・ツアーにおいては、１１月に大阪・東京の２会場にてセミナーを開催。本村への招聘ツアーも２月に実施した。

成果目標（指標）及び進捗状況

H28成果目標（指標）		基準値（年度）	28年度	29年度	30年度	目標値（年度）
人材育成・広報イベントの参加者数150名	目　標	（　）	（150名）	（　）	（　）	（　）
	実　績		982名 ・広報ｲﾍﾞﾝﾄ:886名			
企業招聘セミナー・ツアーの参加企業数20人／10社	目　標	（　）	（20人／10社）	（　）	（　）	（　）
	実　績		16人／13社			

進捗状況説明

人材育成においては、地元の大学と連携したことによるノウハウの蓄積が成された。
広報イベントでは、IT体験ブースを宜野座村まつりとタイアップしたことによる誘客効果に加えて、普段ITに触れることが少ない子供向けへの体験を複数実施したことが盛況の要因であったため、イベントの更なる充実を図りながら継続的に事業を実施していきたい。
企業招聘セミナー・ツアーにおいては、本事業を実施したことにより、新規入居企業を1社誘致することは出来た。
しかし、大阪・東京セミナーや招聘ツアーにおいては、企業への広報周知や準備期間の不足等により、20人の目標を達成出来ていないが、目標以上の13社を招聘することは出来た。
今後の新規企業誘致の際には、本村への立地に関する魅力発信やイベントでの誘客方法を工夫していく必要がある。

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	本事業により長年の課題であった、企業誘致・人材育成のソフト事業を実施することが出来たが、本村で唯一の誘致企業の入居先である「宜野座村IT産業等集積拠点施設」も開所より15年を経過し、類似施設との競合や設備の老朽化に伴う修繕費・取替費用が大きな課題となっているため、企業への魅力ある施設としての機能を維持していくためにもハード事業も併せて実施していく必要がある。	事業初年度で、新規企業1社を誘致出来たことは大きな成果であるが、次年度以降も同様に成果をあげていくためには、同様の事業を踏襲するのではなく、新たな取り組みを実施して事業に厚みをもたらせるよう創意工夫するとともに、設備更新等のハード面の事業を併せて実施することにより課題解決に取り組む。

今後の取り組み方針

本年度は、村単独での企業誘致を実施したところであるが、次年度は類似施設を抱える名護市と連携することにより、更なる誘致を推進すると共に人材育成についても学校、村進出企業等との連携を今年度以上に強化しながら事業を実施する。

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,972	7,972	6,377	1,595	0

宜野座村 7,972千円 ― 委託料 7,972千円 ― 一般社団法人 宜野座村サーバーファーム 7,972千円 （宜野座村人材育成・企業誘致等促進事業委託業務）

資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・委託事業者は、本村に特化した企業立地を推進する事業所となっており、その他事業所にはないため、委託事業所は妥当であったと考えている。 ・事業額が減額されているが少額のため、適正な規模であった。 ・受益者との負担関係は妥当であった ・使途については事業目的達成の観点から必要なものであるか額の確定時（検査）において支出等に関する書類により確認し適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	